

ご近所に住む年配ご夫婦との交流

中沢中学校

一年

松岡

香碧

これは、私が小学校に上がる前の話です。  
以前住んでいた家の向かいのアパートにある  
日、年配のご夫婦が引越してきました。お  
ばあさんは車椅子に乗っていて、デイサービ  
スを利用しながら、おじいさんが一人で介  
護されているようでした。その時はまだ、あ  
いさつをしたりすることはありませんでした。  
しかし、ある日家を出たら、ちやうどそこに  
はおじいさんがいました。あいさつをしてみ  
ると、向こうも返してください、そこから交  
流が始まりました。

別の日に、近所に住んでいた友達と遊ぼう  
と外に出ると、おじいさんが庭で畑仕事をし  
ていました。話かけてみると、トマトやき  
うりなどの、採れたての野菜を私や友達に分  
けてくださいました。それは、一度や二度だ  
けではなく、何回か続きました。その野菜は

家の小さな庭で作ったとは思えないくらい大  
きくて、美味しかったです。それに、おじい  
さんの庭のほうか少し高い場所にあつたので、  
野菜をもらう時、バケツに紐をつけて、その  
バケツに採れたての野菜を山盛りいっぱい  
入れて、私達の前まで下ろしてくださいまし  
た。私のおじいちゃんとおばあちゃんは、島  
根県や群馬県に住んでいてなかなか会えませ  
んが、こうして伊勢原でもご年配の方との交  
流が生まれてとてもうれしかったです。

他の日には、私達がおじいちゃんとおばあ  
ちゃんがいる島根県に帰省した時のお土産を  
わたしたり、そのお返しにアイスを買って  
りました。このような交流を深めていくう  
ちに、最初は元氣や笑顔がなかったおばあさ  
んに、段々と笑顔が生まれていき、次第には  
笑顔であいさつを交わすようになっていきま  
した。

また、ある日、夜まで洗たく物が干しっぱ  
なしだったことがありました。もしかしたら、

家の中で倒れているのではないかと心配した  
両親は、おじいさんの家のインターホンを鳴  
らしてみました。しかし、まったく反応があ  
りませんでした。朝になつてからもう一度お  
じいさんの家を見てみると、もうすでに洗た  
く物がなくなつていました。後から聞くと、  
どうやらその時、おじいさんとおばあさんは  
用事があつて留守にしていたそうです。それ  
を聞いて安心しました。こうして、お互いに  
気遣い合うことが大切なんだな、と思いまし  
た。

その後、話を聞いていくと、どうやらおじ  
いさんとおばあさんのご家族は、はなれたと  
ころで暮らしているそうです。いつも二人だ  
けで生活していると、話す話題も限られてい  
き、家では楽しいことも少ないと思います。  
私のおじいちゃんとおばあちゃんも二人暮ら  
しです。ですが、私達孫が帰省すると、若  
い人達がいると明るく元気になるよ、と喜ば  
れます。なのできつと、おじいさんとおばあ

さんも、私達と交流して、少しでも明るい気持ちになっ、てもらえたのかな、と思います。

私が小学校に入学して少したったある日、おじいさんとおばあさんは、別のところに行っ、越すことになりました。その話を聞いたときは、今までよりも長くお話ししました。また、お引越しの日には、ご家族に私達を紹介してくださいました。たった数年間でしたが、今でも記憶に残っているほど充実した日々でした。ときどき、「お元気かな」と思います。

それに最近、日本では少子高齢化が進んでいて、老老介護で孤立するというニュースをよく見ます。若い人々は体力があり、デジタルにも強いので、それを使ってお年寄りの生活を楽にしてあげればいいし、お年寄りはお年寄りで、まだ未熟な若者の相談に乗ったりしてあげれば、お互いが不安な気持ちにならずに済むと思います。お互いが得意な分野で、お互いを補い合えば、平和な世の中になっていくと思います。